



石神井中だより

練馬区立石神井中学校

校長 櫻井 弘

令和3年12月11日

第8号

自分を信じて

校長 櫻井 弘

この頃報道では、コロナウイルス変異株（オミクロン株）への対策や、北海道での大雪など全国各地での異常気象、起こってほしくない事件・事故について伝えられています。やっとコロナウイルスの影響が小さくなり、様々な活動がこれからという時に行く手には暗雲が…、誰もが安心して安全に過ごすということは、実は大変なことなのだと感じます。

さて、12月となり1年のまとめをするにあたって、皆さんには現在の自分の状況を冷静に見てもらいたいと思っています。この1年、皆さんは、目標や希望を達成するために一日一日をしっかりと過ごし、一步一步前進してきたと思います。しかし、時には2歩も3歩も後退したなど感じたこともあったでしょう。そのような繰り返しはこれからもあると思います。人は弱いので「着実に前進している」と感じる時は良いのですが、「停滞しているな」とか、「後退してしまったな」とか感じた時に、不安が大きくなり自分を信じることができなくなったりします。皆さんは、そういう時の支えを持っていますか。人によって、相談できる人がいたり、気分転換（ストレス発散）できる方法を持っていたり、今までに読んだ「本」や感銘を受けた「ことば」があったりと、いろいろあると思います。

先日、報道番組のスポーツコーナーで、松岡修造さんが日本代表女子バスケットボールヘッドコーチ（現日本代表男子バスケットボールヘッドコーチ）のトム・ホーバスさんへインタビューをした特集を放送していました。トム・ホーバスヘッドコーチは、就任早々東京オリンピックで金メダルを目指すと発言し、周囲から冷ややかに見られていたそうです。しかし、世界一厳しい練習と緻密な情報分析を駆使して結果を残しました。その話の中で2つのことが印象に残りました。1つは、全選手に世界一厳しい練習を通して身に付けてきた技術や戦術、そして自分自身に自信をもたせるため熱い指導を貫いてきたことです。このことがオリンピック準々決勝ベルギー戦において、残り15秒での林選手の3ポイントシュートに繋がっていて、試合後、林選手の「練習通りに打ちました。」というインタビューに表れていると感じたことです。2つ目は、松岡修造さんからの「この試合で林選手の3ポイントシュートの調子は悪く、何本も落としている状況があり、普通ならば調子の悪い選手は、自分がシュートを打ち結果が伴わないとチームに迷惑をかけるので、自分はおとりとなり他の選手を生かすプレーを選択しようと考えよう」という発言を、トム・ホーバスヘッドコーチに、それは「わがまま」な考え方だと指摘され、松岡修造さんもビックリしていたことです。トム・ホーバスヘッドコーチの考えは、林選手はチーム内で決めた自分の役割『シュートチャンスでは3ポイントシュートを打つ』を、今日は調子が悪いからといってやらないことこそチームにとって迷惑となる考え方だということでした。そして、厳しい練習の中でその考え方もチーム共通の思いとなり、日本チームの快進撃につながったとのことでした。この話から、そこまで徹底するから自信になるのだと感じました。

目標達成に向けてがんばったことが直ぐに結果として表れる場合もあれば、結果に結びつくのに長い時間を要することもあります。今まで取り組んできたことはすべて皆さんの力になっているはずで、不安な時には周りの力も借りながら、自分に自信をもって取り組みを継続して行きましょう。

令和3年も残すところ1月です。今年1年、石中生は全員よく頑張っていたと思います。この頑張りが来る令和4年に良い結果として結びつくことを祈っています。保護者の皆様には常日頃より、ご支援ご協力ありがとうございました。令和4年もどうぞよろしく願いいたします。